

金田町人の動き

人口	101063
出生	12955
死亡	5311
男女	8442
世帯	9351
転入	12955
転出	5311
出生	12955
死亡	5311

# かなだ

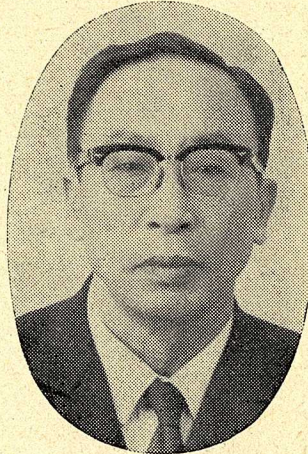
第100号

金田町報  
 発行所 金田町中央公民館  
 編集兼発行人 原田豊茂  
 印刷所 九州機関紙印刷所  
 電話 093 4461

## 昭和四十五年度

## 施政方針

町長 大島六郎



昭和四十五年度予算案を審議するにあたり、私は施政方針を述べましたので、その要旨を本紙を通じて町民の皆様へ御報告申し上げます。

とおりであります。

一、土木事業関係  
 (1) 失業対策事業費  
 事業費六百七十一万五千円  
 吸収人員四、五〇〇人  
 本年度も昨年同様道路の改良工事を取り上げ、神崎地区の適地を選定致したい所存であります。

(2) 緊急就労対策事業費  
 一、松崎～西金田線(二路線) 装工事(外支線二路線)  
 箇所 西金田  
 工事長 九八二米(支線一六〇米 二〇二米)  
 幅員四米  
 舗装面積 三、九二八平方  
 米  
 吸収人員三、一〇四人  
 事業費九百五十八万二千円  
 二、神崎～南木線簡易舗装

三、道路 橋脚 について

(1) 道路整備  
 県の所掌に係る失対就労者吸収策として事業所を町内に解放してほしいとの、要望があつておりますので町内各所の砂利道の整備を図りたいと思つております。

事業中、資材費に限り、程度は町村の負担と相成つておりますが、例年の維持管理面よりして、ある程度財政面にプラスとなるものと思ひます。

これによつて凸凹道路を少しでも無くし、地域住民の要望に答へたいと思ひます。

(2) 神田橋掛替工事  
 箇所 東金田  
 工事長 六八米  
 幅員 八米  
 事業費 一千二百万円  
 昭和四十三年度よりの継続事業であり、昭和四十四年度は左岸の橋台、橋脚、及び旧橋の撤去を致しました。が、本年度は更に右岸の橋脚及護岸工事を行い、予算の取付け如何によつては上部工全体の工事を行い、出来の限り、本年度中に完成を見たい所存であります。

以上一般就労道路復旧事業の総額は、一千五百四十三万九千円です。

復旧により道路本来の効用を回復し、地域住民の民生安定を図る意味で、その効果は大いにあるものと思われまふ。

又復旧に当つては、家屋

(3) 平和橋塗装橋面補修について  
 中元寺川を中心に大字金田と大字神崎を結ぶ重要橋染の一つとなつてゐる平和橋も、年毎に老朽化を見つゝあるので、これが老朽化を防ぐためと、学童及び、通行者の危険防止対策として、四十五年当初に於て橋梁補修及び塗装工事を行う予定であります。

四、一般就労道路復旧事業について  
 (1) 東金田～上田金線  
 箇所 上金田  
 工事長 七七七米五  
 幅員 三米  
 工事費 八百六十一万九千円

(2) 松崎～東金田線  
 箇所 東金田  
 工事長 一一〇米  
 幅員 四米五  
 工事費 百八十万三千円

(3) 垣田～大坪線  
 箇所 垣田  
 工事長 五百三十米  
 幅員 三米五  
 工事費 五百一十七千円

以上一般就労道路復旧事業の総額は、一千五百四十三万九千円です。

復旧により道路本来の効用を回復し、地域住民の民生安定を図る意味で、その効果は大いにあるものと思われまふ。

又復旧に当つては、家屋

の関連等を充分考慮し、施工致したい所存であります。

五、産炭地域開発就労事業について  
 昭和四十四年度は平原団地を誘致企業団地造成工事として計画、予算の獲得も出来、実施の段階において、仮設道路の用地買収に行きつゝまりが出来た為、断念せざるを得なくなつたのであります。が、本年度は古谷地区の広大な山野(古谷池の西南)を開拓し、誘致企業用地造成工事を行うべく、目下県企画開発部長に要望中で、財源の裏付けが、出来次第補正予算に計上し実施する計画であります。

◎団地造成工事の概要  
 計画面積四〇、〇〇〇平方  
 造成総工事費概算、七千三百九十九万五千円の内  
 団地造成費、六千八十四万円  
 関連施設費、四百七十五万五千円  
 用地買収費、八百四十万円  
 造成の概には、有力企業を誘致すべく、目下検討中  
 であります。

兼て懸念中でありました堀川～古谷線道路新設工事は、穎田町と、タイアップして四十六年度に実施する予定であります。

(次頁へ続く)

